

中期目標の達成状況に関する評価結果

総合研究大学院大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	3
《本文》	5
《判定結果一覧表》	17

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

国立大学法人法（平成 15 年法律第 112 号）第 30 条の規定により、国立大学法人総合研究大学院大学が達成すべき業務運営に関する目標（以下「中期目標」という。）を定める。

総合研究大学院大学（以下「本学」という。）は、人文・理工にわたる多数の基礎学術分野につき、機構等法人（大学共同利用機関法人及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構をいい、経過措置として旧独立行政法人メディア教育開発センターの権利及び義務を承継する放送大学学園を含む。以下同じ。）が各地に設置する大学の共同利用の研究所その他の機関（以下「基盤機関」という。）において、各施設の研究環境を最大限に生かした博士課程教育を総合的に統括実施し、学融合による新学問分野の創出・発展を図りつつ、国際的に通用する高度の研究的資質とともに広い視野を備えた人材の育成を目指す。

なお、本学の独特な大学院教育制度は、国立大学法人法及び法人間協定に基づき、機構等法人間との緊密な連係及び協力の下に行われる。

- 1 本学は、日本で最初の博士課程のみの国立大学院大学であり「大学共同利用機関法人及び独立行政法人が設置する大学の共同利用の研究所その他の機関との緊密な連係及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献する」ことを理念としている。
- 2 教育研究上の特徴として、大学共同利用機関法人（人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構）及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構等（以下「機構等法人」という。）が設置する 19 の研究所その他の機関（以下「基盤機関」という。）に 5 研究科 20 専攻を置くとともに、大学本部の所在する葉山キャンパスに先導科学研究科 1 専攻を置き大学院教育を実施している。
これらの有する最先端の施設設備や特殊装置、貴重な学術資料、膨大な文献資料等を直接活用し、多彩な研究者集団と研究環境を最大限に活かした教育研究指導を行うユニークな大学院大学である。
- 3 また、基盤機関に置かれた専攻における専門的教育に加え、広い視野を養い、専門を超えた総合的な教育研究を行うために全学共同教育研究活動を展開している。具体的には、学生が主体となって実施される学生セミナーや修了生のネットワークづくりを目指した学術交流会、総研大レクチャー、国際シンポジウム、JSPS サマープログラムの共催、学生のいわゆる武者修行の機会の付与としての海外派遣など、専攻・研究科の枠を超えた教育プロジェクトの支援などの取組を実施している。

- 4 大学本部のある葉山キャンパスには、全学に開かれた自由闊達な学術交流を行う教育研究拠点として、学融合推進センターを設置し、全学教育事業や学内外の共同研究その他の研究事業を実施している。
- 5 管理運営上の特徴として、基盤機関に専攻を置き大学院教育を実施していることから、法人格の異なる6つの機構等法人及びそれらの法人が設置する基盤機関との密接な関係及び協力により大学運営を実施していることが挙げられる。本学の教員は大学本部に在籍する40名のほかに、基盤機関において教育研究に従事する教員約1,100名を本学担当教員として発令している。また、基盤機関に置く専攻における事務処理についても機構等法人及び基盤機関との相互協力により実施しており、本学は機構等法人との間に締結した包括的な協定による大学運営を行っている。

【個性の伸長に向けた取組】

本学は、大学共同利用機関法人等が設置する研究所等に、研究科・専攻を置き、これら研究所等の有する最先端の施設設備、貴重な学術資料及び膨大な文献等や研究者集団を活かした教育研究指導を行うユニークな大学院大学である。そのため、専攻における高度の専門性に加え、広い視野及び総合性を修得させることを目的とした専攻や研究科を横断する教育研究活動及び学融合による学際的で先導的な学問分野の開拓を進めるためことを目的とした、学際的分野、専攻横断的分野など、学融合推進センターを中心とした学融合を目指した新領域研究プロジェクトに取り組んでいる。

(関連する中期計画) 計画1-1-1-3、計画1-1-2-1~3、計画2-1-2-1

【東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等】 該当なし

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、総合研究大学院大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好		1	3	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	3	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			1	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好		2		
② 研究実施体制等の整備に関する目標	おおむね良好		1	2	
(Ⅲ) その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			1	
② 国際化に関する目標	良好		1		

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 広い視野を有する人材を育成するための専攻及び研究科を越えた教育活動として、新入生を対象とした特別教育プログラムを実施している。平成 26 年度はフレッシュマンウィークを実施し、平成 27 年度からは授業科目「フレッシュマンコース」として各研究科履修規程に位置付けた授業科目とするとともに、著名な研究者の最先端の研究の講演を受け討論する知のフロンティア、科学文章の実習を行うライティング実習等、アクティブ・ラーニングの内容の充実に取り組んでいる。（中期計画 1-1-1-3）

改善を要する点

- 修了生の追跡調査についてワーキンググループを設置し、検索エンジンを利用したウェブサイト調査を行っているものの、対象年度を限定したサンプル調査にとどまっており、「学术交流ネットワークの充実」は、十分にはなされていない。
（中期計画 1-1-1-5）
- 主任指導教員に加え副指導教員等を置き、最大で 5 名から 6 名による複数指導教員制を導入し、演習、プログレスレポート等による集団指導は実施されているものの、留年者、休学者に対する支援が十分にはなされていない。（中期計画 1-1-4-1）

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○新入生を対象とした特別教育プログラムの実施

中期目標(小項目)「本学が研究科の専攻を置く基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用して博士課程教育を行い、高度の研究的資質、広い視野及び国際的通用性を兼ね備えた一流の研究者を育成し、質の高い学位取得者を社会に送り出すことを目標とする。」について、広い視野を有する人材を育成するための専攻及び研究科を越えた教育活動として、新入生を対象とした特別教育プログラムを実施している。平成26年度はフレッシュマンウィークを実施し、平成27年度からは授業科目「フレッシュマンコース」として各研究科履修規程に位置付けた授業科目とするとともに、著名な研究者の最先端の研究の講演を受け討論する知のフロンティア、科学文章の実習を行うライティング実習等、アクティブ・ラーニングの内容の充実に取り組んでいる。(中期計画1-1-1-3)

○生命科学研究科における分野横断的な教育プログラムの実施

生命科学研究科において、平成22年度から開始している脳科学専攻間融合プログラムは、より広範囲な生物学、工学、薬学、情報学、社会科学等の基礎知識と広い視野を持つ研究者の養成を目的とし、学内外の専門家からの教育を受けるこ

とができる。また、平成 23 年度から開始している統合生命科学教育プログラムは、物理科学、数理科学、情報科学等に通じる学際的かつ統合的な生命観を育成する、新しい教育課程となっている。（現況分析結果）

（特色ある点）

○基盤機関の有する研究施設等を活用した教育の実施

中期目標（小項目）「本学が研究科の専攻を置く基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用して博士課程教育を行い、高度の研究的資質、広い視野及び国際的通用性を兼ね備えた一流の研究者を育成し、質の高い学位取得者を社会に送り出すことを目標とする。」について、各専攻では、基盤機関の持つ各種の高度で大型の研究施設・実験設備又は貴重な学術資料等を活用し、研究者としての高度な専門性を養成するための教育を実施している。（中期計画 1-1-1-1）

○基盤機関の世界的な研究拠点機能を活かした国際性養成プログラムの実施

中期目標（小項目）「本学が研究科の専攻を置く基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用して博士課程教育を行い、高度の研究的資質、広い視野及び国際的通用性を兼ね備えた一流の研究者を育成し、質の高い学位取得者を社会に送り出すことを目標とする。」について、学生の高い専門性と国際通用性を養うため、基盤機関の世界的な研究拠点機能を活かした教育研究を推進している。学生に対して国際的な会議への参加を積極的に奨励しており、国際研究集会支援事業等において開催経費等の支援を行っており、平成 27 年度は 8 名に総額 260 万円を助成している。各研究科から推薦のあった学生を海外の大学や研究機関へ派遣し、研究を行う海外学生派遣事業を実施し、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）に 67 名の学生を派遣している。（中期計画 1-1-1-4）

○研究科・専攻を越えた専門性を高める教育プログラムの実施

中期目標（小項目）「基盤機関の特性・個性を最大限に発揮した教育を行い、高度の専門性と広い視野及び以下に掲げる総合性を修得させる。専攻や研究科を横断する教育研究活動を行うための教育体制の整備を行う。①学生の所属する専攻が有する高い専門性と総合性 ②専攻間の分野を横断し、新たな学問領域の開拓にもつなげる科学の総合性 ③社会が抱える今日的な重要問題を視野に入れることができるような人間の総合性」について、専攻を設置する基盤機関の研究者約 1,100 名が専任教員となり、学生 1 名に対し教員 2 名から 3 名の充実した指導体制となっている。基盤機関の人的・研究環境を活かし、基礎科目や専門科目等の通常の授業科目に加え、基盤機関で行われるセミナー・研究会等を活用した授業を実施している。研究科・専攻を越えた教育プログラムを実施しており、学生の専門性を高める教育を行っている。（中期計画 1-1-2-1）

○学融合を目指した全学共同教育活動の推進

中期目標（小項目）「基盤機関の特性・個性を最大限に発揮した教育を行い、高度の専門性と広い視野及び以下に掲げる総合性を修得させる。専攻や研究科を横断する教育研究活動を行うための教育体制の整備を行う。①学生の所属する専攻が有する高い専門性と総合性 ②専攻間の分野を横断し、新たな学問領域の開拓にもつなげる科学の総合性 ③社会が抱える今日的な重要問題を視野に入れることができるような人間の総合性」について、研究科共通科目並びに共同開講科目の開講、文化科学研究科連携事業における他専攻開講科目の履修の支援、先導科学研究科の「科学・技術と社会」等の他研究科への提供に加え、研究者倫理を含む「フレッシュマンコース」、学生セミナー等の全学共同教育研究活動、研究科合同セミナーや特別教育プログラムの編成・実施等を通じ、専攻をまたぎ、また、専攻を越えた学融合を目指した全学共同教育活動を推進している。

（中期計画 1-1-2-2）

○学生主体の交流事業、研究会等の実施

中期目標（小項目）「高い教員対学生比率を生かし、学生の資質及び能力等に応じた教育研究指導を行う。」について、学生が主体となり企画・実施する研究科を越えた交流事業、研究会等を支援する学生企画教育事業を平成 22 年度から実施している。また、学生セミナー、研究科合同セミナーにおいて、学生が企画立案するプログラムを行うことにより、研究者として必要なリーダーシップやコミュニケーション能力を養成している。（中期計画 1-1-4-3）

（改善を要する点）

○修了生の追跡調査

中期目標（小項目）「本学が研究科の専攻を置く基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用して博士課程教育を行い、高度の研究的資質、広い視野及び国際的通用性を兼ね備えた一流の研究者を育成し、質の高い学位取得者を社会に送り出すことを目標とする。」のうち、中期計画「⑤修了生の追跡調査を実施し、学術交流ネットワークを充実」について、修了生の追跡調査についてワーキンググループを設置し、検索エンジンを利用したウェブサイト調査を行っているものの、対象年度を限定したサンプル調査にとどまっており、「学術交流ネットワークの充実」は、十分にはなされていない。（中期計画 1-1-1-5）

○学生に対する教育研究指導

中期目標（小項目）「高い教員対学生比率を生かし、学生の資質及び能力等に
応じた教育研究指導を行う。」のうち、中期計画「①指導教員による個別指導と
専攻全体による集団指導を協調的に実施」について、主任指導教員に加え副指導
教員等を置き、最大で5名から6名による複数指導教員制を導入し、演習、プロ
グレスレポート等による集団指導は実施されているものの、留年者、休学者に対
する支援が十分にはなされていない。（中期計画 1-1-4-1）

（2）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目
標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」で
あり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

○学長・機構長等連絡協議会の設置

中期目標（小項目）「機構等法人や基盤機関との密接な連携協力体制を構築す
る。」について、学長、各大学共同利用機関法人機構長、宇宙航空研究開発機構
（JAXA）宇宙科学研究所長からなる学長・機構長等連絡協議会を平成 24 年度に
設置し、学長と各機構等法人の長との定期的意見交換を実施している。

（中期計画 1-2-1-1）

○研究科、専攻を横断する弾力的な教育実施体制の構築

中期目標（小項目）「弾力的な教育実施体制を充実する。」について、特定の
研究科に属さない研究科や専攻を横断する弾力的な教育実施体制として、平成 24
年度から総合教育科目、物理科学コース別教育プログラム、脳科学専攻間融合プ
ログラム、統合生命科学教育プログラムを編成し、平成 27 年度に学術資料マネジ
メント教育プログラムを加え、実施している。コース修了要件を満たした学生に
はプログラム修了証を交付し、課程制博士課程の実質化を図っている。

（中期計画 1-2-3-1）

(特色ある点)

○基盤機関との連携協力体制の構築

中期目標（小項目）「機構等法人や基盤機関との密接な連携協力体制を構築する。」について、大学共同利用機関法人等との連携協力協定に基づき、基盤機関研究者を専任教員として発令し、専攻長、研究科長として配置している。基盤機関の施設・設備についても、学生の無償使用等を明確化し、現状把握に努めるなどの有効活用を図っている。（中期計画 1-2-1-3、1-2-1-4）

(3) 学生への支援に関する目標**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

○優秀な学生に対する研究支援

中期目標（小項目）「基盤機関と連携し教育、生活、就職などの学生支援を促進する。」について、特に優秀な学生の研究を奨励することを目的に、平成 22 年度に学長賞を設け、受賞者に研究経費の支援を行っている。平成 26 年度まで毎年度表彰し、計 53 名を支援している。平成 26 年度からは科学者を志す学生の学位研究を奨励することを目的に、総研大未来科学者賞とし、3 名を上限とする受賞者には、一人当たり 30 万円の研究経費を支援している。このほか、多くの学生は、複数の基盤機関で構成されている機構等法人の研究アシスタント (RA) として雇用されている。（中期計画 1-3-1-3）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生の研究水準の維持向上を図る取組の実施

中期目標(小項目)「基盤機関で行われている世界的水準にある研究を基礎に、学生の研究水準の維持・向上を図る。」について、学生の研究水準の維持向上を図るため、研究活動の過程における発表・意見交換の場を設けており、学生は基盤機関の研究グループの一員として、日常的に研究成果の発表や議論を所属研究者と同じ環境で行っている。また、学術雑誌への投稿を博士論文の審査の条件とすること等により、学術雑誌への研究成果発表を促進し、国際研究発表支援事業等により国際的研究集会への参加を奨励、支援している。その結果、学生による査読付き論文が日本学術振興会賞等を受賞するなどの成果が現れている。

(中期計画 2-1-1-1)

○文化科学研究科における研究の推進

文化科学研究科において、日本史の「シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代(19世紀)に日本で収集された資料についての基本的調査研究」は、海外2大学を含む28研究機関64名を組織し、海外24機関の協力を得て多分野の研究者が協業した学際的な調査を実施し、平成27年度にアメリカ図書館協会貴重書・手稿部会のLeab展示賞第3部門を受賞している。(現況分析結果)

○物理科学研究科における研究の推進

物理科学研究科において、天文科学専攻の基盤機関である国立天文台のすばる望遠鏡の査読論文数は、第2期中期目標期間の平均で136件となっており、Keck望遠鏡（米国）やVLT望遠鏡（欧州）と同等の水準である。また、アルマ等の主要な国際天文プロジェクトに参画した結果、アルマ観測データを利用した査読論文数の国別の順位では、日本は米国に次いで2位となっている。（現況分析結果）

○高エネルギー加速器科学研究科におけるヒッグス粒子の発見

高エネルギー加速器科学研究科において、素粒子の質量生成機構の鍵を握るヒッグス粒子を発見し、素粒子物理学の標準模型を完成させており、様々な強相関電子系物質やソフトマター等に関する研究を推進している。（現況分析結果）

○高エネルギー加速器科学研究科における研究の推進

高エネルギー加速器科学研究科において、第2期中期目標期間の研究活動の状況について、「放射光におけるPFおよびPF-ARリングにおける高度化改造」、「J-PARCにおける中性子実験装置の建設と共同利用実験の開始」、「J-PARCにおけるミュオン実験装置の建設と共同利用実験の開始」、「構造生物学研究センターを中心とした放射光構造生物学の進展」等を行っている。（現況分析結果）

○生命科学研究所における教育普及活動及び共同研究の推進

生命科学研究所において、基礎生物学専攻では、平成22年度に生物機能解析センターを新設し、全国の研究者や大学院生を対象とした教育普及活動及び共同研究を広く展開している。（現況分析結果）

○生命科学研究所における研究の推進

生命科学研究所において、査読付き英文論文は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）と第2期中期目標期間を比較すると、遺伝学専攻は738件から937件へ、生理科学専攻は804件から872件へそれぞれ増加している。

（現況分析結果）

○生導科学研究科における研究の推進

生導科学研究科において、生物学各分野の著名な学術誌に多数の理論研究論文を原著論文として発表しており、引用数が460回を超える論文等もある。

（現況分析結果）

○生導科学研究科における研究の推進

生導科学研究科において、ゲノム・エピゲノム進化の理論、理論疫学、病原体と宿主の共進化、動物やヒトの行動の進化ゲーム理論的な研究に貢献している。

（現況分析結果）

(特色ある点)

○学融合による学際的・先導的研究の推進

中期目標（小項目）「学融合による学際的で先導的な学問分野の開拓を進めるため、全学共同教育研究活動を推進する。」について、学融合推進センターの研究事業の一環として、先導的で既存の学問領域の枠を越えた新しい学問分野の開拓を推進する戦略的研究プロジェクト及び学際的分野や専攻横断的な新規性・独自性ある研究課題を推進する公募型共同研究を学内公募し、平成 22 年度から平成 23 年度に計 21 件を採択している。平成 26 年度からは、より異分野連繫的共同研究を推進するため、学生又は修了生、あるいは海外の研究者等を加えることを要件としたグローバル共同研究及び学融合共同研究を実施し、平成 26 年度から平成 27 年度に計 13 件を採択し、学生の研究水準の維持・向上に取り組んでいる。

(中期計画 2-1-2-1)

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○全学教育研究プロジェクトの再編

中期目標（小項目）「全学共同教育研究活動を戦略的に実施し、効率的な運営を推進する体制を構築する。」について、平成 22 年度に全学共同教育研究施設である葉山高等研究センターを学融合推進センターに改組し、全学教育研究プロジェクトを学融合教育事業、学融合研究事業、学術交流事業及び基盤整備事業に再編している。各事業の企画・実施に際しては、各研究科代表とセンター担当教員を構成員とするセンター運営委員会を設置し、専攻間や研究科間の関係を促進する運営体制として実施している。また、センター事業の拠点として学融合推進センター棟を増設している。(中期計画 2-2-3-1)

(特色ある点)

○学生の研究活動の促進・奨励

中期目標（小項目）「学生の研究環境を整備するとともに、研究成果を公表する機会を充実させる。」について、学生は基盤機関が有する施設設備や資料を活用し、研究会等への参加を通じた研究活動を行っている。学生が行う研究活動を促進・奨励し、研究成果を広く社会に発信することを目的として、学融合推進センターにおいて、研究論文の投稿・掲載の経費支援を行い、平成 27 年度からは学生の要望に基づき助成総額を上限 20 万円に増額している。

（中期計画 2-2-1-1、2-2-1-2、2-2-1-3）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○高校・大学院連携事業の実施

中期目標(小項目)「社会的に重要な問題に対して戦略的な基礎研究を展開し、その成果を社会に分かり易く伝えることにより、社会への成果の還元を行う。」について、平成24年度から、県立横須賀高等学校との高校・大学院連携事業横高アカデミアを実施しており、高校生を対象に自己探求・学問探究の場を提供することを目的として、教員を派遣し講義を行っている。横高アカデミアを含む教育活動により、当該高等学校は平成28年度から文部科学省スーパーサイエンスハイスクールに指定されている。(中期計画3-1-1-2)

(2) 国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○留学生の受入プログラムの実施

中期目標(小項目)「各専攻の有する学術的な国際性や大学本部が位置する湘南国際村の環境を活用し、国際交流の充実を図るとともに、学生が世界的なレベルで国内外で活躍できるための国際的通用性を涵養する。」について、留学生を広く受け入れるため、文部科学省の国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムを活用し、平成18年度から平成23年度まで物理科学、高エネルギー加速器科学、複合科学及び生命科学の4研究科において留学生を受け入れ、英語による講義、研究指導を行っている。その実績に基づき、平成26年度から優先配置数を計12名分に増加して引き続き採択され、国際プロジェクト研究を牽引するエクスパート人材育成プログラム、生命・情報科学分野の知の化学反応と循環を促すテーラーメイド教育のプログラムを実施している。(中期計画3-2-1-2)

(特色ある点)

○国際通用性を養成するプログラムの実施

中期目標(小項目)「各専攻の有する学術的な国際性や大学本部が位置する湘南国際村の環境を活用し、国際交流の充実を図るとともに、学生が世界的なレベルで国内外で活躍できるための国際的通用性を涵養する。」について、海外からの研究者が多く滞在する基盤機関では、国際的研究センターとして、共同研究、国際シンポジウム及びセミナー等を通して活発な交流が行われている。海外から学生・若手研究者を招へいして集中講義を行うアジア冬の学校、海外の大学等で実施する海外総研大レクチャー、国際共同研究等を支援する海外学生派遣事業等の国際通用性を養成するプログラムを実施している。(中期計画3-2-1-1)

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
<p>本学が研究科の専攻を置く基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用して博士課程教育を行い、高度の研究的資質、広い視野及び国際的通用性を兼ね備えた一流の研究者を育成し、質の高い学位取得者を社会に送り出すことを目標とする。</p>		おおむね良好	
1-1-1-1	①高度の専門性を養成するために、専攻を置く基盤機関の研究現場において教育を実施	おおむね良好	特色ある点
1-1-1-2	②高い学位水準を保証するために、学位取得にいたるプロセス管理プログラムを実施	おおむね良好	
1-1-1-3	③広い視野を養成するために、専攻及び研究科の枠を越えた教育研究活動を実施	良好	優れた点
1-1-1-4	④国際的通用性を養うために、基盤機関の持つ国際的研究センターとしての環境の活用や全学共同教育研究活動を中心とした国際性養成プログラムを実施	おおむね良好	特色ある点
1-1-1-5	⑤修了生の追跡調査を実施し、学術交流ネットワークを充実	不十分	改善を要する点
<p>基盤機関の特性・個性を最大限に発揮した教育を行い、高度の専門性と広い視野及び以下に掲げる総合性を修得させる。専攻や研究科を横断する教育研究活動を行うための教育体制の整備を行う。</p> <p>①学生の所属する専攻が有する高い専門性と総合性 ②専攻間の分野を横断し、新たな学問領域の開拓にもつなげる科学の総合性 ③社会が抱える今日的な重要問題を視野に入れることができるような人間の総合性</p>		良好	
1-1-2-1	①専門の総合性：各専攻が有する専門領域の広さと深さと国際性に基づく、各専攻独自の特色あるカリキュラムを体系的に編成	おおむね良好	特色ある点
1-1-2-2	②科学の総合性：専攻間でのカリキュラムの共有や専攻をまたがる教育研究事業を実施	良好	特色ある点
1-1-2-3	③人間の総合性：全学的な学融合教育研究活動を実施	良好	
<p>学位水準に即したアドミッションポリシーに基づき、厳正な入学者選抜を実施する。</p>		おおむね良好	
1-1-3-1	①専攻毎の学位水準に即したアドミッションポリシーの明示と、それに基づいた厳正な入学者選抜を実施	おおむね良好	
1-1-3-2	②社会人・留学生を含む多様な入学志願者の入学機会を保証するために、秋期入学選抜を継続実施	おおむね良好	
<p>高い教員対学生比率を生かし、学生の資質及び能力等に応じた教育研究指導を行う。</p>		おおむね良好	
1-1-4-1	①指導教員による個別指導と専攻全体による集団指導を協動的に実施	不十分	改善を要する点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
1-1-4-2	②学生の意見を踏まえた教育研究指導を実施		おおむね良好	
1-1-4-3	③学生が企画立案する事業を奨励し、リーダーシップ、コミュニケーション能力を養成		おおむね良好	特色ある点
1-1-4-4	④インターネットを利用した補完授業を実施		おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標			おおむね良好	
機構等法人や基盤機関との密接な連携協力体制を構築する。			おおむね良好	
1-2-1-1	①学長と各機構等法人の長との意見交換を定期的実施		良好	優れた点
1-2-1-2	②本部役職員の基盤機関訪問により教員・学生との意見交換を実施		おおむね良好	
1-2-1-3	③連携協力協定に基づき総研大担当教員、専攻長、研究科長等を適正配置		おおむね良好	特色ある点
1-2-1-4	④連携協力協定に基づき基盤機関施設・設備を有効利用		おおむね良好	特色ある点
専攻間の連携による教育研究活動を行うための体制を整備する。			おおむね良好	
1-2-2-1	①専攻間を跨ぐ教育研究活動の支援と推進		おおむね良好	
1-2-2-2	②専攻間の兼任教員制度の活用		おおむね良好	
1-2-2-3	③学融合推進センターなど全学共同教育研究施設を中心とした全学教育研究プロジェクトの企画と実施並びに拠点としての学融合推進センターの施設の拡充		良好	
弾力的な教育実施体制を充実する。			良好	
1-2-3-1	課程制博士課程の実質化を図るため、学生の実状を反映した弾力的な教育実施体制に関する制度的な検討を進める。		良好	優れた点
教育研究のための図書環境を整備するとともに、附属図書館における学術情報の継承機能を充実する。			おおむね良好	
1-2-4-1	①電子ジャーナルの購読及び冊子体図書の拡充		おおむね良好	
1-2-4-2	②学術コンテンツの電子化、蓄積、共有、活用の推進		おおむね良好	
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
基盤機関と連携し教育、生活、就職などの学生支援を促進する。			おおむね良好	
1-3-1-1	①教育研究環境の点検と必要に応じた整備		おおむね良好	
1-3-1-2	②学術交流ネットワークの整備を進め、就職支援に活用		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
1-3-1-3	③特に優れた学生に対する顕彰及び経済支援の措置		良好	優れた点
1-3-1-4	④多様な学生相談窓口を設置		おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			良好	
基盤機関で行われている世界的水準にある研究を基礎に、学生の研究水準の維持・向上を図る。			良好	
2-1-1-1	学生の研究水準の維持向上を図るため、研究活動を促進・奨励する措置を進め、研究活動の過程において適切な発表・意見交換の場を設ける。		良好	優れた点
学融合による学際的で先導的な学問分野の開拓を進めるため、全学共同教育研究活動を推進する。			良好	
2-1-2-1	学融合による学際的で先導的な学問分野の開拓を進めるため、学際的分野、専攻横断的分野など、学融合推進センターを中心とした学融合を目指した新領域研究プロジェクトを推進する。		良好	特色ある点
② 研究実施体制等の整備に関する目標			おおむね良好	
学生の研究環境を整備するとともに、研究成果を公表する機会を充実させる。			おおむね良好	
2-2-1-1	①基盤機関が有する施設・設備の有効利用		おおむね良好	特色ある点
2-2-1-2	②学生の学会等における積極的な研究成果発表を奨励		おおむね良好	特色ある点
2-2-1-3	③学生の研究論文に対する出版費補助		おおむね良好	特色ある点
大学院教育を通じて基盤機関における基礎研究の活性化を目指す。			おおむね良好	
2-2-2-1	①広い視野を持った研究者を育て、新しい発想や学際的領域の拡大を推進		おおむね良好	
2-2-2-2	②全学共同教育研究活動への教員・学生の参加推進		おおむね良好	
2-2-2-3	③学融合推進センターによる、学生、研究生、女性研究者を対象とした支援事業の推進		おおむね良好	
全学共同教育研究活動を戦略的に実施し、効率的な運営を推進する体制を構築する。			良好	
2-2-3-1	全学共同教育研究活動を戦略的に実施し、効率的な運営を推進する体制を構築するため、学融合推進センターなど全学共同教育研究施設を中心に、全学共同教育研究活動を戦略的に実施、開放的かつ効率的な運営を行うとともに、その拠点である学融合推進センターの施設の拡充を進めることにより、学際的交流を促進する。		良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
社会的に重要な問題に対して戦略的な基礎研究を展開し、その成果を社会に分かり易く伝えることにより、社会への成果の還元を行う。		おおむね良好	
3-1-1-1	①総研大合同フォーラム「未来ある人類社会の構築」を定期的開催	おおむね良好	
3-1-1-2	②教育研究成果に関する一般・小中高生向け公開講演会等を実施	良好	優れた点
3-1-1-3	③地域と連携した男女共同参画事業の企画と実施	おおむね良好	
② 国際化に関する目標		良好	
各専攻の有する学術的な国際性や大学本部が位置する湘南国際村の環境を活用し、国際交流の充実を図るとともに、学生が世界的なレベルで国内外で活躍できるための国際的通用性を涵養する。		良好	
3-2-1-1	①基盤機関のもつ国際的研究センターとしての環境を活用するとともに、全学共同教育研究活動として国際的通用性養成プログラムを実施	良好	特色ある点
3-2-1-2	②入学希望者を国内外から広く募集するとともに、英語による講義・指導等留学生の受入に必要な体制の整備・維持	良好	優れた点
3-2-1-3	③JSPS（独立行政法人日本学術振興会）サマー・プログラムの受入実施及び、その参加者と本学学生との国際交流促進	おおむね良好	